

## 報告

# 学生が学修を通じて養われたと考える養護教諭に必要な資質能力

## ——教職実践演習における教職マインドマップの作成から——

大坂京子<sup>1)</sup> 奥田紀久子<sup>1)</sup> 中窪萌子<sup>2)</sup> 宮崎久美子<sup>1)</sup>

所属：1) 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

2) 徳島大学大学院保健科学教育部

キーワード：教職実践演習，資質能力，履修カルテ，マインドマップ，養護教諭

Qualifications and abilities for school nurses which students considered through their curriculum

——Using the Teaching Mind Map which was described in a practical seminar for the teaching profession——

Kyoko OSAKA<sup>1)</sup>, Kikuko OKUDA<sup>1)</sup>, Moeko NAKAKUBO<sup>2)</sup>, Kumiko MIYAZAKI<sup>1)</sup>

1) Institute of Health Biosciences, The University of Tokushima

2) School of Health sciences, The University of Tokushima

Keywords : teaching profession practical seminar, qualifications and abilities, portfolio of completing a course, mind map, school nurse

要約：中央教育審議会は「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策」について平成 24 年 8 月に答申し，その中で，これからの教員に求められる資質能力について，1) 教職に対する責任感，探求力，教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力，2) 専門職としての高度な専門的知識・技能，3) 総合的な人間力，の 3 点を重点課題として示している。

本研究は，養護教諭養成課程の学生が，養護教諭に必要な資質能力をどのようにとらえ，養成カリキュラムのどの科目が，それらの資質能力の形成に寄与したかを分析したものである。教職に関する科目の「教職実践演習」の学修活動の一環として，学生が作成した教職マインドマップに記述された語句から，学生が養護教諭にとって重要だと考える資質能力および，それらの資質能力が養われたと考える科目及び学生生活との関連を明らかにした。

### 1. 緒言

「教職実践演習」は，教育職員免許法施行規則の改正に伴い，平成 22 年度の教員養成課程入学学生から，それ以前の「総合演習」に代わって新

設された教員養成課程における必修科目である<sup>1)</sup>。

「教職実践演習」は，教職課程の履修科目や教職課程外での様々な活動を通じて学生が身に付けた資質能力が，教員として最小限必要な資質能力

として有機的に統合され、形成されたかについて、課程認定大学が自らの養成する教員像や到達目標等に照らして最終的に確認するもの<sup>2)</sup>とされており、4 年次に教職課程の総括的な位置づけとして履修が義務付けられている。

当該科目の実施にあたって、文部科学省は「教職実践演習の進め方及びカリキュラムの例」を提示しており、具体的に授業の実施に当たっての準備事項や授業で取り扱う内容・方法の例<sup>3)</sup>を提示している。この中で「履修カルテ」は教職実践演習の学修目標到達のための中核的な学習活動の一つの要素として取り扱われており、入学時からそれぞれの学生の学習内容、理解度等を把握（たとえば、履修する学生一人一人の「履修カルテ」を作成）するとされている<sup>3)</sup>。徳島大学では「履修カルテ」について、教師として必要な資質能力を徳島大学の教育目標に照らしながら、到達目標を設定した「教職キャリアノート」として独自に作成し活用している。徳島大学医学部保健学科（以下、本学科）では養護教諭を養成しており、養護教諭養成課程においても同様式の教職キャリアノートを導入している。

科目としての「教職実践演習」および「履修カルテ」の導入から期間が浅く、その方法論の検討、開発や教育成果についての適時な検証が望まれているところである。文献検索エンジン CiNii では「教職実践演習」をキーワードとして 119 件が登録されていた。中央教育審議会において「教職実践演習」が教職課程の質的水準の向上の具体的な内容としてあげられた 2006 年に 5 件、その後増加し、2010 年からは 20 件から 25 件の論文が該当した。「教職実践演習」と「養護」をキーワードにすると 3 件が該当し、資料が 1 件<sup>4)</sup>、考察が 1 件<sup>5)</sup>、取組について述べられたものが 1 件<sup>6)</sup>であった。論文数が少ないことや各大学の取組に関する報告や考察が多いことから、「教職実践演習」の展開が体系化され、その成果が検証されるには、今後の研究調査の深化が重要であると言える。

これらを踏まえて、本学科では初めて開講する教職実践演習の構成に、現職養護教諭や管理職経験者による講義、自己省察のためのグループワー

ク等を取り入れた。その取り組みの一端として、学生が履修した科目や学内外の活動で養われたと考える養護教諭に必要な資質能力を、マインドマップの概念を応用して視覚的に表すことにより、学生の 4 年間の学びを統合的に省察する学習活動を行った。マインドマップは、Tony Buzan が提唱した思考・発想法のひとつで、表現したい概念の中心となるキーワードやイメージからそれらを放射状に広げ、思考の整理や発想力を豊かにすることなどをねらったもの<sup>7)</sup>である。マインドマップの思考と教職に関連したキーワードを組み合わせたこれらの図を、教職マインドマップと呼ぶこととした。

本学科での試行的取り組みの成果を評価分析し、フィードバックすることが、今後の教職実践演習の学修内容の充実につながると考えている。

## 2. 目的

本研究は、教職実践演習において学生が作成した教職マインドマップを分析し、学生が養護教諭にとって必要と考えている資質能力と、それらが今までに履修した科目や学生生活の経験からどのように系統的に養われたと考えているのかを明らかにすることを目的とした。

## 3. 方法

対象：平成 22 年度に入学した医学部保健学科看護学専攻の学生のうち、養護教諭一種免許状の取得を希望し、教職実践演習以外のすべての科目を履修した 21 名。

期間：平成 25 年 7 月～10 月

方法：平成 25 年 7 月下旬に教職マインドマップ作成のための説明会を実施し、作成のために必要な用紙（四つ切画用紙）、説明文、教職キャリアノートを配布し、提出期限を 10 月末とし、回収した。記載する科目は、教育職員免許法第 66 条の 6 に定められた 4 科目、教職に関する科目 13 科目、養護に関する科目 32 科目、計 49 科目を指定した。また、履修科目以外の学生生活を通じた活動は自由に記述してよいものとした。

分析方法：対象学生が教職マインドマップに記載した語句をテキストデータとして入力を行っ

た。同じ意味であると考えられる語句は同一語として扱った。

まず、養護教諭に必要なと考える資質能力として記述された語句を抽出した。下位概念が含まれているものは、より具体性の高い下位概念を資質能力とした。次にテキストデータを、【養護教諭にとって必要と思われる資質能力およびその語句別延べ使用回数】【語句別使用者数】【科目・項目別の資質能力の使用者数】のそれぞれにおいてカウントし、分析した。

#### 4. 結果

教職マインドマップ上に、学生が養護教諭に必要な資質能力として記述されていた語句は 41 語、延べ 799 件であった。学生一人あたりの平均記述語句数は、37 (±19) 件であった。また、科目別に使用されていた語句は、12 (±12) 件であった。学生が資質能力の形成に関係したと答えた科目は 53 科目であった。その他の学内外の学生生活に関する活動は 11 項目であった。学生が作成し



図 1. 教職マインドマップの作成例 1



図 2. 教職マインドマップの作成例 2

た教職マインドマップの例を図 1~2 に示す。

表 1. 語句別延べ記述回数

| 語句            | 回数  | 語句           | 回数  |
|---------------|-----|--------------|-----|
| 1 コミュニケーション能力 | 111 | 22 豊かな人間性    | 7   |
| 2 専門的知識       | 104 | 23 専門性       | 7   |
| 3 判断力         | 72  | 24 厳しさ       | 6   |
| 4 専門的技術       | 62  | 25 応急処置能力    | 6   |
| 5 観察力         | 59  | 26 創造力       | 5   |
| 6 知識          | 51  | 27 包容力       | 4   |
| 7 指導力         | 45  | 28 人間関係調整力   | 4   |
| 8 技術          | 39  | 29 チームワーク力   | 4   |
| 9 児童生徒理解力     | 31  | 30 行動力       | 4   |
| 10 使命感        | 16  | 31 企画・運営力    | 4   |
| 11 コーディネート力   | 16  | 32 優しさ       | 3   |
| 12 想像力        | 14  | 33 倫理観       | 3   |
| 13 正しい判断力     | 14  | 34 察する力      | 3   |
| 14 正しい知識      | 14  | 35 忍耐力       | 3   |
| 15 人間性        | 13  | 36 カウンセリング能力 | 3   |
| 16 協調性        | 13  | 37 温かい心      | 2   |
| 17 社会性        | 12  | 38 児童生徒への愛情  | 2   |
| 18 児童生徒受容力    | 12  | 39 協働性       | 2   |
| 19 知識の活用性     | 10  | 40 精神的発達     | 1   |
| 20 生徒指導力      | 9   | 41 緊急時対応能力   | 1   |
| 21 責任感        | 8   | 計            | 799 |

#### 1) 語句別延べ記述回数

養護教諭に必要な資質能力として、最も多く記述されていた語句 (延べ記述回数) は「コミュニケーション能力」で 111 回であった (表 1)。次いで、「専門的知識」104 回、「判断力」72 回、「専門的技術」62 回、「観察力」59 回、「指導力」45 回、「児童生徒理解力」31 回、「コーディネート力」16 回、「使命感」16 回であった。「専門的知識」と「知識」は記述されていた科目等の項目に照らし合わせ、内容によって区別した。また「専門的技術」と「技術」およ

表 2. 科目・項目別資質能力の記述件数(上位20項目)

| 科目・項目          | 延べ記述件数 |
|----------------|--------|
| 1 臨床看護学実習      | 37     |
| 2 子どものメンタルヘルス  | 36     |
| 3 救急医療論        | 33     |
| 4 看護技術 I~IV    | 31     |
| 5 教育相談         | 30     |
| 6 ヘルスアセスメント    | 30     |
| 7 学校保健論        | 30     |
| 8 教育心理学        | 29     |
| 9 基礎看護学実習 I・II | 29     |
| 10 養護概説 I・II   | 26     |
| 11 教師論         | 25     |
| 12 解剖生理学       | 25     |
| 13 教育方法学       | 23     |
| 14 養護実習指導      | 23     |
| 15 生徒指導論       | 22     |
| 16 アルバイト       | 21     |
| 17 健康相談活動      | 20     |
| 18 栄養学         | 19     |
| 19 免疫学         | 18     |
| 20 教育学         | 17     |

び、「指導力」と「生徒指導力」, 「判断力」と「正しい判断力」, 「知識」と「正しい知識」も同様の観点から区別して分析した。

## 2) 回答者別記述語句数

回答者人数別にみると, 最も多く使用されていた語句は「コミュニケーション力」で 13 人が記述していた。次いで, 「専門的知識」10 人, 「判断力」8 人, 「観察力」7 人, 「専門的技術」7 人, 「指導力」6 人, 「コーディネート力」3 人, 「児童生徒理解力」2 人, 「使命感」2 人, 「精神的発達」2 人であった。その他の語句の使用は 1 人であった。

## 3) 科目・項目別延べ記述件数

養護教諭に必要な資質・能力がどの科目や大学内外の活動によって養われたかについて, 延べ記述件数が最も多かった科目は, 「臨床看護学実習」で 37 件であった(表 2)。次いで, 「子どものメンタルヘルス」36 件, 「救急医療論」33 件, 「看護技術」31 件, 「教育相談」30 件, 「学校保健論」30 件であった。上位 20 項目の内, 教職に関する科目が 7 項目を占めていた。

## 4) 科目・項目別資質能力の記述内容及び記述数

主な科目・項目別に記述された資質能力の内容を「教育職員免許法施行規則 66 条の 6 に定める科目」, 「教職に関する科目」, 「養護に関する科目(看護学を含む)」, 「その他の活動」に整理し, 文部科学省が教職実践演習の学習成果として求める資質能力として掲げる「使命感や責任感, 教育的愛情等」「社会性や対人関係能力」「児童生徒理解や学級経営等」「教科内容等の指導力」の 4 群に対応させて分類した(表 3)。養護教諭養成課程にある学生であることから, 「学級経営」を「保健室経営」, 「教科内容等の指導」を保健指導及び救急処置を含めた「養護に関する指導」と読み替えた。

また, 学生生活での経験として, アルバイトやボランティア活動, 部活動, 日常生活等, 11 項目を挙げ, これらの経験からも教員としての資質能力を養ったと考えていた。

## 5. 考察

### 1) 学生が重要と考える養護教諭の資質能力

本研究は養護教諭を目指す学生が, 教育職員としてのキャリアの基盤形成をねらい, 4 年間の学修の統合化を図るための学習活動を分析したものである。したがって, できるだけ学生が自由に思考や発想を行い, 自分自身の言葉で教員としての資質能力を表現できるようにした。学生が養護教諭にとって重要と考えた資質能力の語句数は平均 37 (±19) であった。この数値は, 学生の語彙力や学習活動への取り組み姿勢に少なからず影響を受けていることを加味したとしても, 今までに学修した知識と経験から想起される資質能力には個人差が大きいことを示している。これは, 大平らの述べる, 「資質能力」に関しては, 必ずしも定義が明確でなく一致した概念の共有がなされていない状況<sup>8)</sup>がその背景にあるものと推測できる。しかし, 表現の差はありながらも, 2012 年 8 月の中央教育審議会答申において示された, これからの教員に求められる資質としての「使命感や責任感, 教育的愛情」, 「専門職としての高度な知識・技能」及び「総合的な人間力」<sup>9)</sup>の 3 項目を概ね網羅できていることから, 彼らが真摯に養護教諭を目指して学修を積み重ねてきた成果が表れているものと評価できる。

さらに, 同答申では「使命感や責任感, 教育的愛情」を「教職に対する責任感, 探求力, 教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力」と解釈している。学生の記述した資質能力の語句には「探求力」や「学び続ける力」に該当するものが無く, 今後の養成教育活動の中で, これらの概念を意識的に強化していく必要があることが示唆された。

### 2) 養われたと考える資質能力の科目による特性

教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に指定された科目は, 教養教育科目に属する科目である。これらの科目では, 主に教育活動の基盤となる, 「使命感や責任感, 教育的愛情」及び「社会性や人間関係能力」が養われたと学生は認識していた。2002 年の中央教育審議会答申では, 大学における教養教育について, 社会の中での自己の役割や在り方を認識し, より高いものを目

表3. 主な科目や経験により養われたと学生が考える資質能力一覧

|  |                                      | 教職実践演習の成果として求められる内容             |   |  |  |
|--|--------------------------------------|---------------------------------|---|--|--|
| 科目   |                                      | 使命感や責任感、<br>教育的愛情               | 社会性や人間関係能力  | 児童生徒理解や学<br>級(保健室)経営等                  | 教科内容等の指導力<br>(養護に関する指導力)                   |
| 教<br>育<br>規<br>則<br>目<br>に<br>免<br>許<br>め<br>法 | 英語・ドイツ語・中<br>国語                      |                                 | コミュニケーション能力(4)                                      |  |  |
|  | ウェルネス総合演<br>習                        |                                 | 協調性/社会性<br>コーディネート力                                 |  |  |
|  | 憲法と人権                                | 使命感/人間性                         | 社会性<br>知識(2)/技術(2)                                  |  | 判断力  |
|  | 情報科学                                 |                                 | 知識/技術   |  |  |
| 教<br>職<br>に<br>関<br>す<br>る<br>主<br>な<br>科<br>目 | 教師論                                  | 使命感/責任感<br>受容力                  | コミュニケーション能力(4)<br>コーディネート力                          | 児童生徒理解力<br>生徒指導力                       | 専門的知識(3)/技術<br>指導力/判断力                     |
|  | 教育学                                  | 使命感/行動力<br>人間性                  | コーディネート力<br>コミュニケーション能力(2)                          | 児童生徒理解力<br>生徒指導力                       | 専門的知識<br>指導力(2)                            |
|  | 教育心理学                                | 豊かな人間性<br>想像力(3)<br>受容力         | コミュニケーション能力(4)                                      | 児童生徒理解力<br>生徒指導力(4)<br>観察力(3)          | 専門的知識(4)<br>判断力(3)                         |
|  | 教育相談                                 | 豊かな人間性<br>温かい心/受容力              | コミュニケーション能力(9)                                      | 児童生徒理解力                                | 専門的知識(3)<br>判断力(3)                         |
|  | 教育方法学                                | 使命感/行動力<br>創造力                  | コミュニケーション能力(5)<br>知識                                | 生徒指導力(2)<br>児童生徒理解力                    | 専門的知識(2)/技術<br>指導力(4)/判断力                  |
|  | 生徒指導論                                | 使命感/責任感<br>受容力                  | コミュニケーション能力(3)<br>知識(2)/技術                          | 児童生徒理解力(2)<br>生徒指導力(5)<br>観察力          | 専門的知識<br>判断力(2)                            |
|  | 養護実習                                 | 使命感/想像力(2)<br>優しさ<br>厳しさ        | チームワーク力<br>コミュニケーション能力(9)<br>コーディネート力(3)            | 児童生徒理解力<br>観察力(3)                      | 応急処置能力<br>専門的知識(11)/技術(4)<br>指導力(2)/判断力(6) |
| 養<br>護<br>に<br>関<br>す<br>る<br>科<br>目           | 看護技術                                 |                                 | コミュニケーション能力(5)                                      | 観察力(3)                                 | 専門的知識(8)/技術(7)<br>指導力/判断力                  |
|  | ヘルスアセスメント                            |                                 | コミュニケーション能力<br>社会性                                  | 児童生徒理解力<br>観察力(6)<br>児童生徒受容力<br>知識の活用力 | 専門的知識(6)/技術(5)<br>判断力(4)/専門性<br>正しい知識      |
|  | 救急医療論                                | 責任感                             | コミュニケーション能力   | 観察力(4)<br>知識の活用力                       | 判断力(6)/専門性<br>専門的知識(9)/技術(4)<br>正しい知識/指導力  |
|  | 健康相談活動                               | 想像力                             | コミュニケーション能力(7)<br>コーディネート力/創造力                      | 観察力<br>児童生徒理解力                         | 指導力(2)/判断力(3)<br>専門的知識                     |
|  | 子どものメンタル<br>ヘルス                      | 責任感/受容力<br>察する力/想像力             | コミュニケーション能力(4)<br>カウンセリング能力                         | 観察力(2)<br>児童生徒理解力                      | 専門的知識(5)/技術(3)<br>指導力(3)/判断力               |
|  | 学校保健論                                | 使命感<br>責任感                      | コミュニケーション能力(2)<br>知識・技術                             | 観察力(2)<br>知識の活用力<br>児童生徒理解力<br>企画・運営力  | 専門的知識(8)/技術(4)<br>正しい知識<br>指導力(3)/判断力(4)   |
|  | 養護概説                                 | 使命感/人間性<br>想像力                  | コミュニケーション能力(2)<br>創造力/知識/技術<br>コーディネート力             | 児童生徒理解力<br>観察力<br>企画・運営力               | 専門的知識(4)/技術<br>指導力(3)/判断力(4)               |
|  | 臨床看護学実習                              |                                 | コミュニケーション能力(7)                                      | 観察力(4)                                 | 専門的知識(7)/技術(5)<br>指導力(3)<br>判断力(3)         |
|  | 基礎看護学実習                              | 想像力                             | コミュニケーション能力(5)<br>協調性/コーディネート力                      | 観察力(4)                                 | 判断力/指導力(2)<br>専門的知識(4)/技術(5)               |
|  | そ<br>の<br>他<br>の<br>主<br>な<br>活<br>動 | アルバイト                           | 豊かな人間性(2)<br>忍耐力/責任感<br>使命感/厳しさ                     | コミュニケーション能力(5)<br>協調性(2)/社会性<br>知識/技術  | 児童生徒理解力                                    |
| ボランティア活動                                       |                                      |                                 | コミュニケーション能力(2)                                      | 観察力                                    | 指導力  |
| 部活動  |                                      | 人間性                             | 社会性/協調性(2)<br>コミュニケーション能力(2)<br>コーディネート力<br>知識/技術   |  | 指導力  |
| 日常生活(学生生<br>活、友人・家族関<br>係、恋など含む)               |                                      | 使命感/倫理観<br>豊かな人間性<br>厳しさ<br>包容力 | 協調性/協働力<br>コミュニケーション能力(3)<br>人間関係調整力<br>コーディネート力(2) |  |  |

※ ( )内は記述人数

指していくことを意識した知的訓練を行うことが重要である<sup>10)</sup>と述べられており、教員を目指す

す学生にとっては、教員の資質能力の基盤となるものに他ならない。1年～2年次に履修した科目であること、また教養教育が大学在学中の能力変化として測定できないものをも教えようとする<sup>11)</sup> 特性を包含していることから、教員としての資質能力に直結しないために記述数が少ないという可能性が考えられる。近年、即効性、合理性、対効果が重要視される社会の中で、教員に求められる能力として、新たに提唱されるようになったのが「反省的実践家 (reflective practitioner)」としての専門家像<sup>12)</sup> であり、この専門家像に立脚した専門的力量を獲得するには教職生活全体を通じて省察行為を地道に続けていくしか方策はない、とされている。したがって教養教育は、目先の成果にとらわれることなく、すべての学修活動や学生生活を通じて学生自身が主体的に、かつ不断に学び続ける力を着実に形成することが最も重要な役割を担っていると言えよう。

また、教職に関する科目では、「使命感や責任感、教育的愛情等」「社会性や対人関係能力」「児童生徒理解や学級経営等」「教科内容等の指導力」すべてにわたって、資質能力を養ったと学生が考えていた。教職に関する科目は、主に「教職の意義等に関する科目」、「教育の基礎理論に関する科目」、「教育課程に関する科目」、「生徒指導及び教育相談に関する科目」に分類される。どの科目も学校教育に焦点化した学修内容であることから、学生が教員の資質能力を養ったと考えるのは当然と言えよう。特にすべての教職に関する科目から「コミュニケーション能力」を養ったと考えていることは、これらの科目の学修活動の根底にコミュニケーションの重要性が含まれていることを学生自身が気づいたということである。教員に求められる資質能力は多様化しているが、ベテランの小・中学校の教員ほど、コミュニケーションの重要性を感じている<sup>13)</sup> ことから、望ましい成果と判断することができる。

さらに、養護に関する科目は、養護教諭の専門性や養護教育活動に直結する内容の科目が多く、これらの科目から養護教諭としての姿勢や専門的知識・技術を多く身に付けていることが推測で

きる。養護教諭はほとんどが一人職として配置され、児童・生徒の傷病時においては生命にかかわる判断を強いられる責任の重い職種である。近年、アレルギー疾患の増加やいじめ、不登校の背景や実態の複雑化から、子どもの身体的健康管理のみではなく、心の問題への対応も養護教諭の重要な役割とされている<sup>14)</sup>。これらに対応する資質能力として、学生は「専門的知識/技術」、「判断力」、「観察力」を多く記述しており、これらが養護教諭の専門性につながると考えていることが推測できる。

### 3) 学生生活全体を通して養われた資質能力

履修科目以外に、学生は大学生生活全体を通して 11 項目を挙げていた。特に養われた資質能力の記載が多かったのはアルバイトで、家庭教師や塾講師等の教育に係るものや、飲食店での調理や接客のアルバイト経験が含まれると推測できる。学生にとってのアルバイト経験は、睡眠時間や食生活、自覚症状への様々な負の影響が報告されている<sup>15)</sup> 反面、アルバイト活動への望ましい取り組み方が人間形成にとってポジティブな影響力を持つ<sup>16)</sup> ことも報告されている。本研究の対象者は教員を目指すという志向性が基盤としてあることから、日常の様々な生活体験から、資質能力につながる多くのことを学んでいたことが示唆された。しかし、これらは抽象的で漠然としていたことが多く、半ば無意識的であった可能性が高い。学生が教職マインドマップ作製に取り組む過程で、より明確に意識化された学びの体験として、自分の周りで起こる事象は、すべて常に学び続ける機会であることを自覚できたものと考えられる。

## 6. 結語

近年の教員養成政策は、教科の専門性や専門分野の学問的知識よりも、教職の意義をはじめ教科の指導法や生徒指導に係ることなど、教職の専門性を重視する方向に展開してきた。しかし、当たり前のことであるが、どのような教員養成教育であっても、学修の過程を顧みることなしに期待する教育効果を上げることは難しく<sup>17)</sup>、その意味で

「教職実践演習」は教員養成課程の学修を統合化し、学生自身の学修に対する省察を促すことで、「学び続ける」姿勢を示唆するという、教員養成の集大成にふさわしい科目として位置づけることができる。本研究の取り組みは、教職マインドマップの作成過程を通して、学生自らが自分たちの学修の成果を再確認し、教員免許状を授与されるにふさわしい資質能力を養ったことを体感するための学修活動でもあった。

学生は教養教育科目から、使命感や責任感、教育的愛情、主に人として、また教員としての基本的姿勢や、社会性や人間関係能力等の社会人として必要な資質能力を養うことができたと考えていた。また、「教職に関する科目」からは、児童生徒理解や学級（保健室）経営に関する資質能力を養ったと考えていた。さらに看護学を含む「養護に関する科目」では、学校における救急処置や保健指導のための専門的知識/技術及び判断力を養うことができたと考えていた。

本研究では、学生が記述した語句にのみ焦点化して分析を行ったが、今後、さらに詳細に分析し、学生が考える教員に必要な資質能力の構造を明らかにした上で、教員養成教育の在り方、例えば科目の順序性や目標を検討し、これからの教員に求められる資質能力を高めるための取り組みを継続する必要があると考えている。本研究を通じ、教員養成教育に携わる大学教員にもまた、学び続ける力と養成教育に真摯に向き合う姿勢が肝要であることが示唆された。

## 7. 文献

- 1) 文部科学省：教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令及び教員免許更新制の実施に係る関係告示の整備等について（通知），2008
- 2) 中央教育審議会答申：今後の教員養成・免許制度の在り方，中央教育審議会，2005
- 3) 中央教育審議会，初等中等教育分科会，教員養成部会：資料 8-2 教職実践演習の進め方及びカリキュラムの例，会議日 2011.3.9，URL [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyochukyo3/002/siryoy/1303353.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyochukyo3/002/siryoy/1303353.htm)，2013.

## 12.31 アクセス

- 4) 後藤多知子，中林恭子：「保健室の先生をめざす会」の実践に関する一研究，瀬木学園紀要，6，63-67，2012
- 5) 梨木昭平：教職課程「生徒指導論」の実践についての考察，養護教諭との連携，太成学院大学紀要，13，285-296，2011
- 6) 上村弘子，住野好子，松枝睦美他：養護教諭養成教育における「教職実践ポートフォリオ」の開発－岡山大学の取り組み－，日本教育大学協会研究年報，29，73-90，2011
- 7) トニー・プザン著，近田美季子訳：新版ザ・マインドマップ，ダイヤモンド社，2013
- 8) 中央教育審議会答申：教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について，中央教育審議会，2012
- 9) 大平泰子，大石昂，水上義行：教員に求められる資質能力とは－小学校教員における資質能力の構成要因に関する文献レビュー－，富山国際大学子ども育成学部紀要，1，31-41，2010
- 10) 中央教育審議会答申：新しい時代における教養教育の在り方について，中央教育審議会，2002
- 11) 千葉聡子：大学の変化と教養教育の役割－初年児教育の広がり－の次に大学が目指すものについての一考察－，文教大学教育学部紀要，第 43 集，121-130，2009
- 12) 沖塩由希子：教員養成教育の在り方に関する一考察－教員の資質向上に関する中央教育審議会答申を手がかりとして，千葉商大紀要，51 (1)，55-71，2013
- 13) 麻生良太，森下覚，河野伸子他：小学校と中学校の教員は教員養成系大学・学部は何を求めているのか，大分大学教育福祉学部附属教育実践総合センター紀要，30，57-69，2013
- 14) 保健体育審議会答申：養護教諭の新たな役割，保健体育審議会，1997
- 15) 上村芳枝，芹沢百合子，門田祐太朗：女子学生のアルバイト状況と食生活状況・自覚症状との関連，比治山大学短期大学部紀要，47，57-68，2012

- 16) 田村隆宏, 木村信貴, 三井理愛他: 大学生の心理的 Well-being に及ぼすアルバイト活動への取り組み方の影響, 日本教育心理学会総会発表論文集, 53, 139, 2011
- 17) 天野かおり, 志々田まなみ: 教職に関する科目「教育方法論」の教授方法・内容の改善・充実に関する一考察—実践的指導力の形成に着目して—, 尚絅大学紀要 A 人文・社会科学編, 45, 51-66, 2013